

研究テーマ 4 医療・健康データの長期大規模解析：先制医療への橋渡し



【国際環境工学部 情報メディア工学科】山崎 恭 【同 環境生命工学科】加藤 尊秋
 【経済学部 経済学科】牛房 義明 【環境技術研究所】永原 正章
 連携研究機関：【産業医科大学】大谷 誠・藤野 善久・藤本 賢治・松田 晋哉

KEYWORDS

健康診断データ、長期解析、テラーメイド、解析モデル

健康を害す前に予防を行うためには、それまでに得られた様々な医療・健康データを活用して個々人の将来の健康状態を予測し、早め早めに手を打つ必要がある。当研究チームでは、北九州市立大学のデータ解析の専門家と公衆衛生に関わる産業医科大学の研究者が連携し、健康状態の将来予測をテラーメイドで行うための技術開発を行う。

研究実績と優位性

健康診断データの意味は、本来、個々人の身体特性や生活履歴により異なるが、現状では、個別時点・個別検査項目による評価にとどまっており、個人の健康遷移の全体像を描き出すことができていない。そこで、産業医科大学及び関係機関が所蔵する大規模かつ長期におよぶ健康診断データを産業医科大学と本学の研究者が連携して解析し、過去から将来にいたる健康状態の遷移モデルを作ることで、個人別の将来予測型健診評価を可能とするための基本技術を開発する。

波及効果(5年後)

健康診断データのより有意義な解釈が可能となり、健康寿命延伸のために職場や家庭の健康管理に役立てることができるようになる。

地域社会・企業との連携など

- ・産業医科大学との連携によりプロジェクトを進める。
- ・本研究で開発する手法は、診療報酬データ等の解析にも応用できる可能性が高く、2つのデータを結合して解析することにより、テラーメイドの健康状態予測精度がさらに向上し、地域の医療機関や保健所、企業等と連携した健康管理活動が可能となる。

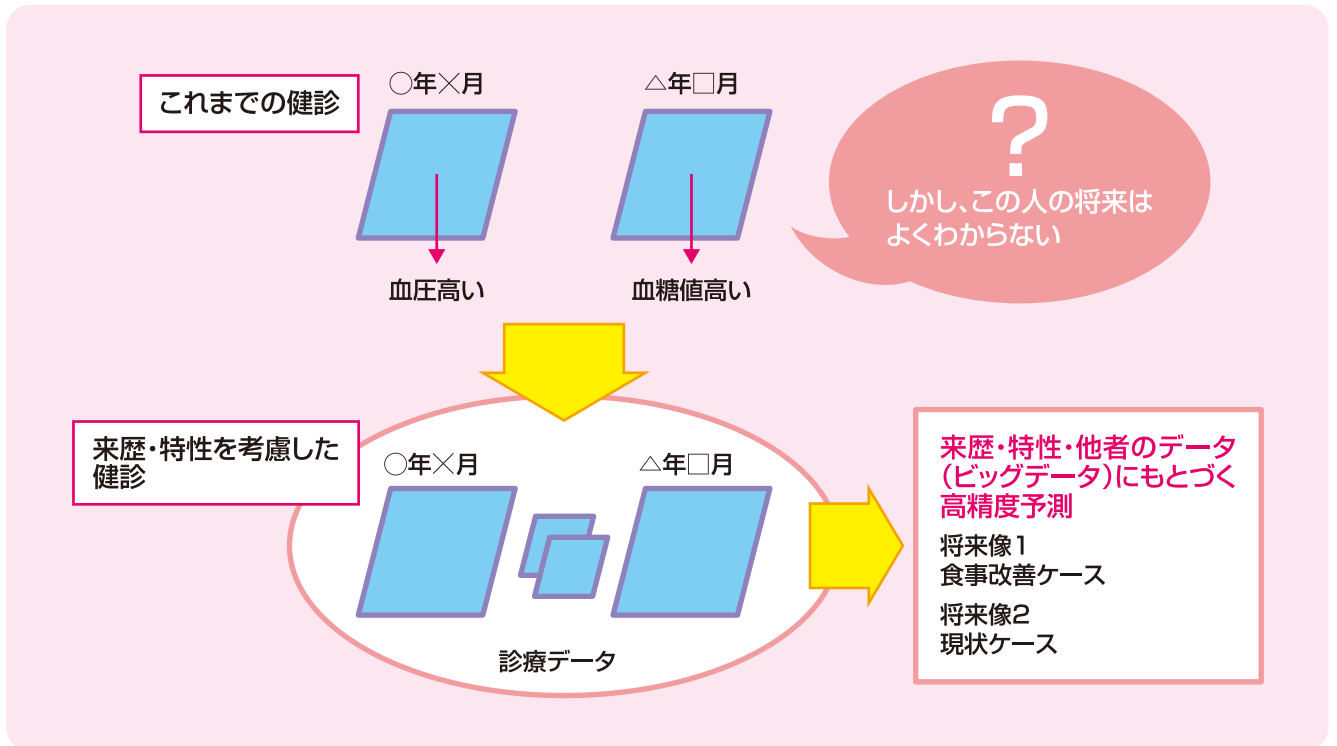


図1 これまでの健康診断と本研究で開発する健康診断活用法の違い